

生徒・保護者アンケートの結果から

■人権教育の充実（思いやり・友人関係・いじめ）

生徒 1	肯定的回答	
道徳の授業を通じて、思いやりの心や社会性が身に付いている。	1年	95.1 %
	2年	94.4 %
	3年	94.2 %

保護者 1	肯定的回答	
道徳の授業を充実させ、思いやりの心や社会性を育成している。	1年	93.6 %
	2年	89.7 %
	3年	87.1 %

生徒 2	肯定的回答	
他人を尊重し、仲間と良い関係を築いている。	1年	95.8 %
	2年	94.4 %
	3年	94.9 %

保護者 2	肯定的回答	
人権教育を充実させ、好ましい人間関係を構築している。	1年	87.5 %
	2年	84.4 %
	3年	89.3 %

生徒 3	肯定的回答	
他の人をいじめたり、自分がいじめられたりすることはない。	1年	90.4 %
	2年	93.6 %
	3年	94.2 %

保護者 3	肯定的回答	
いじめや不登校問題に対して迅速な対応をしている。	1年	71.4 %
	2年	77.7 %
	3年	87.2 %

【成果】

5月の情報モラル講習会、6月のいのちの講演会、11月の道徳授業地区公開講座や教育活動全体で行ってきた道徳教育の成果が表れて、生徒1～3の肯定的回答は、どの学年も90%を超えている。

【方策】

今後も、教育相談活動を毎学期実施し、配慮を要する生徒の把握や不登校の未然防止と早期発見に努める。特別支援教育コーディネーターを中心に、スクールカウンセラー・心のふれあい相談員・スクールソーシャルワーカー・適応指導教室等と連携した指導体制により、生徒および保護者への支援を充実する。

■学力向上を図る

生徒 4	肯定的回答	
授業はわかりやすく、学力は伸びている。	1年	76.1 %
	2年	78.4 %
	3年	92.8 %

保護者 4	肯定的回答	
学習活動を工夫し、わかりやすい授業を行っている。	1年	85.4 %
	2年	87.6 %
	3年	90.3 %

生徒 5	肯定的回答	
1年間に3冊以上の本を読んでいる。	1年	78.8 %
	2年	73.0 %
	3年	78.3 %

保護者 5	肯定的回答	
読書週間の育成を図っている。	1年	86.9 %
	2年	75.5 %
	3年	84.7 %

生徒 6	肯定的回答	
学習の評価を自分の学習に活かしている。	1年	82.1 %
	2年	80.8 %
	3年	82.6 %

保護者 6	肯定的回答	
評価方法について共通理解を図り、信頼度の高い評価・評定を行っている。	1年	81.8 %
	2年	66.7 %
	3年	74.5 %

【成果】

授業規律が確立しており、多くの生徒が授業に集中している。特に3年生は、学習面だけでなく、様々な行事を通して、1・2年生をリードするという最高学年の役目を担ってきた。生徒4では、3年生の肯定的回答は90%を超えており、学力の伸びとともに自尊感情が高まってきているということがうかがえる。

【方策】

学校図書館支援員を活用して図書館の整備と蔵書の充実を図り、図書委員会と連携し、生徒の読書活動を活発にする。生徒5の肯定回答率を上げるために、始業前の朝読書を継続し、夏休みの課題で学年ごとの課題図書による読書感想文に取り組みさせる。

■豊かな人間性を育む生徒指導

生徒7	肯定的回答	
挨拶の励行や時間を守るなどの生活習慣が身に付いている。	1年	94.0 %
	2年	92.7 %
	3年	96.4 %

保護者7	肯定的回答	
生活習慣と規範意識の育成が行われている。	1年	91.4 %
	2年	89.0 %
	3年	87.3 %

生徒8	肯定的回答	
学校や社会のきまりを守っている。	1年	97.0 %
	2年	100.0 %
	3年	100.0 %

保護者8	肯定的回答	
問題行動に対して適切な指導を行っている。	1年	81.5 %
	2年	83.1 %
	3年	92.4 %

生徒9	肯定的回答	
他人とトラブルを起こさない、または、起こしても反省できる。	1年	95.8 %
	2年	100.0 %
	3年	98.6 %

保護者9	肯定的回答	
生徒の心を大切にした温かみのある生徒指導を行っている。	1年	88.2 %
	2年	88.0 %
	3年	95.2 %

【成果】

来校された方々に褒めていただけるほど、生徒が挨拶することが習慣化している。また、生徒はきまりを守るだけでなく、互いに声をかけ合う姿をよく見かける。中学生なら必ず生じるいざこざも、教員が間に入り、最後には反省するにいたっている。

【方策】

今後も、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる人権感覚を育成するために、学校において一人一人の生徒が大切にされていることを実感させる生徒指導を実践する。また、各教科指導計画に道徳的内容を取り入れ、教科の特質に応じて道徳性を高める指導を計画的に行い、全教育活動を通して豊かな心を育成する教育を推進する。

■主体的な自己実現を促すキャリア教育の充実

生徒10	肯定的回答	
学校行事には主体的に取り組んでいる。	1年	95.7 %
	2年	96.0 %
	3年	97.1 %

保護者10	肯定的回答	
生徒が主体的に取り組める、感動できる学校行事が行われている。	1年	84.0 %
	2年	83.2 %
	3年	86.3 %

生徒11	肯定的回答	
部活動には意欲的に取り組み、充実している。	1年	91.2 %
	2年	90.6 %
	3年	88.1 %

保護者11	肯定的回答	
部活動は充実している。	1年	71.3 %
	2年	74.0 %
	3年	65.9 %

生徒12	肯定的回答	
自分の将来についてしっかりと考えている。	1年	62.1 %
	2年	69.0 %
	3年	77.6 %

保護者12	肯定的回答	
自己実現を促すキャリア教育が充実している。	1年	63.7 %
	2年	57.9 %
	3年	68.3 %

【成果】

コロナ禍の中、様々な制限があったが、本年度のここまでの行事は全て実施することができた。各クラスが実行委員を中心に、それぞれの行事に主体的に取り組んできた。3年生にとっては、初めての合唱コンクールだったが、その堂々たる合唱に1・2年生は感動し、石東中の新たな伝説の始まりを感じさせられた。

【方策】

生徒12の肯定的回答率を上げるために、進路学習部が中心となり、組織的・系統的にキャリア教育を推進する。キャリア・パスポートの活用により自己理解を深め、主体的に進路を選択し、自己実現を図る能力を育成する。

■安全管理・健康の増進

生徒13	肯定的回答	
避難訓練等を通じて、防災や安全について考えている。	1年	93.4 %
	2年	92.8 %
	3年	94.9 %

保護者13	肯定的回答	
安全指導の計画的な実施により、防災や安全についての意識を高めている。	1年	90.0 %
	2年	80.2 %
	3年	92.8 %

生徒14	肯定的回答	
校内で事故につながるような危険な行動は行っていない。	1年	91.5 %
	2年	96.9 %
	3年	97.8 %

保護者14	肯定的回答	
校舎内外の安全点検と修繕を通して、生徒の安全を確保している。	1年	92.0 %
	2年	90.3 %
	3年	95.2 %

生徒15	肯定的回答	
食事に気を配り、健康な生活を心掛けている。	1年	91.5 %
	2年	86.4 %
	3年	92.6 %

保護者15	肯定的回答	
健康教育や食育を充実させ、心身に健康な生徒を育成している。	1年	94.3 %
	2年	85.5 %
	3年	95.4 %

【成果】

避難訓練における避難時は、私語がなく速やかな行動がとれている。地震発生訓練でも、適切に自分の身を守る行動がとれている。生徒14では、学年が上がるにつれて肯定的回答率が向上し、ほとんどの生徒が、危険な行動を行わない。

【方策】

生徒15の2学年の肯定的回答率を上げるため、食育の年間指導計画の作成や給食試食会、学校保健委員会の開催を通じて保護者への啓発を行い、各家庭の協力を得ながら、心身ともに健康な生徒の育成に努める。

■障害者理解・国際理解

生徒16	肯定的回答	
ハンディキャップのある人に対して、配慮のある行動ができる。	1年	96.4 %
	2年	96.8 %
	3年	97.0 %

保護者16	肯定的回答	
多様性を尊重し、社会貢献や他者を思いやる心を育成している。	1年	84.6 %
	2年	83.6 %
	3年	82.7 %

生徒17	肯定的回答	
フェアプレーやチームワークを大切にしている。	1年	95.8 %
	2年	97.6 %
	3年	94.9 %

保護者17	肯定的回答	
フェアプレーやチームワークの精神を育み、心身ともに健康な生徒を育成している。	1年	91.5 %
	2年	86.9 %
	3年	90.3 %

生徒18	肯定的回答	
日本の文化を理解するとともに、他国の文化を尊重する気持ちがある。	1年	92.2 %
	2年	94.4 %
	3年	96.4 %

保護者18	肯定的回答	
日本の伝統や文化を学ばせ、豊かな国際感覚を養っている。	1年	68.0 %
	2年	67.7 %
	3年	71.5 %

【成果】

本校の伝統的スローガンである「心をひとつに」「良きプレーヤーである前に良き中学生であれ」を生徒たちが体現している。生徒たちは、支援が必要な仲間に対して、とても優しく対応している。また、勝ち負けよりも、自分たちがベストを尽くせたことに喜びを感じる感性をもち合わせている。

【方策】

東京2020オリンピック・パラリンピック競技会の開催を振り返り、オリンピックパラリンピック教育を継続し、「学校2020レガシー」の資質として、「障害者理解」及び「豊かな国際感覚」を育成する。